

大学名：愛媛大学（四国遍路・世界の巡礼研究センター）

表題：四国から世界へ

取材対応者

センター長／法文学部教授
胡 光（えべす・ひかる）

法文学部3回生
水松啓太

成果・評価など

四国遍路の世界遺産化のためには、資産の文化財指定と普遍的価値の証明が必要とされており、霊場の調査を行い、四国遍路の歴史や特徴を世界の巡礼と比較して研究している本センターの活動と一致します。四国4県への協力はすでに行ってきましたが、

法文学部附属から本学センター化された本年には、四国4県と協力協定を結ぶ準備を進めるなど、四国はもとより全国でも唯一の巡礼研究センターとして、期待が高まっています。

特色ある取組

1200年の歴史を有する四国遍路は、今もなお大勢の人々を四国へ誘い、地域の人々もお接待で迎える、生きた四国の文化です。本センターは、四国遍路の歴史や現代の実態を解明し、世界各地の巡礼との国際比較研究を行うことを目的として設立されました。歴史学、文学、社会学、法律学、経済学、観光学などさまざまな分野の教員が結集し、他大学や博物館・官公庁などとも連携しながら、四国遍路と世界の巡礼の学際的研究を進めるとともに、四国遍路の世界遺産登録への学術的協力など、地域貢献にも努めています。

国内研究部門では、四国遍路の古代から現代までの歴史・文化を解明し、また現代遍路の多様な実態をフィールド調査などを通して明らかにします。国際研究部門では、世界各地の巡礼の歴史や現在の諸相を探求し、あわせて四国遍路と世界の巡礼との国際比較を行います。この研究成果は、ミュージアムでの展示や講演会、刊行物などで公開しています。

歩き遍路を行う授業や、学生を伴ったの霊場調査などは、研究だけでなく、実践的な教育の場を提供し、社会貢献についても学ぶ機会となっています。

★学生も積極的に活動に参加しています

- ・ 四国遍路を世界遺産に！
- ・ 霊場に保管されている資料（仏像、絵画、古文書、聖教等）の調査
- ・ 平成30年7月の西日本豪雨で水損した史料の乾燥作業や資料保全活動
- ・ お遍路さんへのアンケート調査
- ・ お接待の実践



愛媛大学生と歩く遍路道



霊場調査風景

四国の文化を世界へ発信
次世代への伝統文化継承
四国遍路を世界遺産に！



参考URL <http://henro.ll.ehime-u.ac.jp/>